

マンガで分かる

LLPを活用した資金調達

資金調達が『楽』になります！！

『昔』と『今』は
違います

昔の資金調達



LLPを活用した新たな資金調達



『昔』のやり方だけでは
これからは苦戦します

『今』の資金調達手法を
このマンガで紹介します

株式会社

OTIS.MANAGEMENT

オーティスマネジメント

(表紙の裏:空白)

(表紙)

1. 中長期キャッシュフロー経営への転換

本来、経営戦略を考える際の基礎は、営業の拡大ではなく、**分かりますか？**

今期は10店舗の出店を目標として、**営業の拡大ではなく**

中長期のキャッシュフローを増やしていくことを目指すものです。増やすのはこれです。

cash IN
cash OUT
cash FLOW

そこで企業で知恵を出し合い、**経営改善を進めますが**

まずは多くの企業が陥りがちな**営業改善スタイル**を見てください。

1 不採算店の閉店、経費の圧縮、人員削減、資産売却、タウンサイジング

2 市場の縮小・売上げの低下、粗利益の減少、キャッシュフロー(CF)の減少

陥りがちな営業改善スタイル

やはりコストカットか？
考え直せ！

閉店

急に資金が必要になったままに置かれても...
企業が生き残る為には資金調達がとても大切になります。

今ほどの企業も勝ち残りをかけて必死に戦っています。

資金調達には様々な方法があります。

銀行

更に新しい手法も生まれています。

今回ご紹介するこの方法はこちらです。

CF (CashFlow)担保のLLPを活用した資金調達

LLP?
CFを担保?

すでに実績を持ちながらもまだ一部の人にしか理解されていない方法です。

活用するとこのようになります。

急に資金が必要になったぞ

大丈夫です、すぐに用意出来ます。

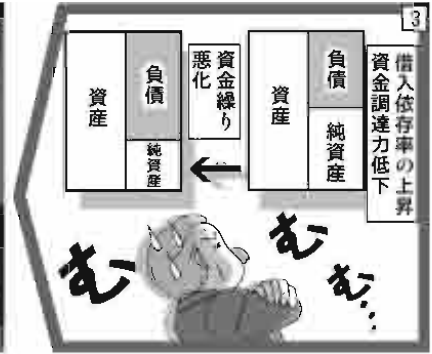
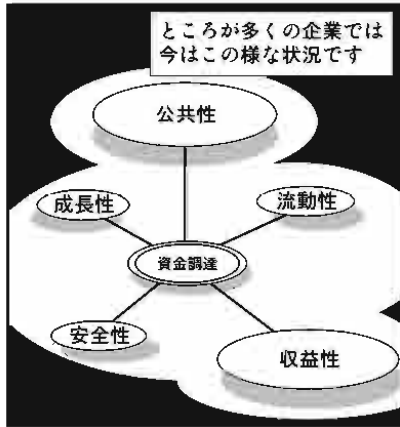
必ずやあなたの新しい武器になると思いますので

どうぞ最後までご覧下さい。

2. 多様化する資金調達の実状

公共性	企業信用力・業績 コーポレートリスク
安全性	回収の確実性 担保・保全
収益性	適正な利益 金利・手数料
流動性	調達期間 長期・短期
企業の成長性	事業計画

金融機関ではこの5つのポイントで評価をしています



3.LLPを活用した資金調達



その為には資金の『出し手』にいかにお納得、安心して頂けるかがカギとなります



目的は『必要な資金』を『必要な時』に調達することです

ここでもう一度確認致しますが



返済の優先順位をあらかじめ決めておくことにより融資金や投資金の回収といった安全性が高まります



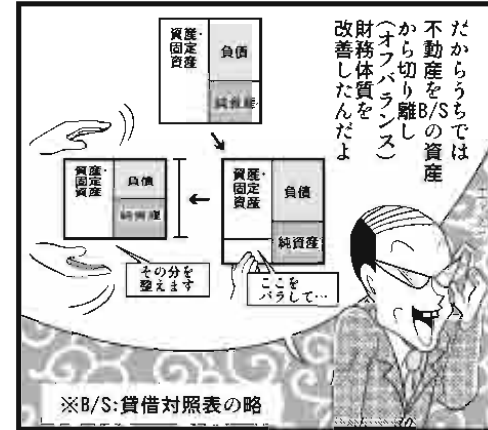
店舗から生み出されるキャッシュの『発生状況』と『流れ』が明確になり投資家に安心して頂けます



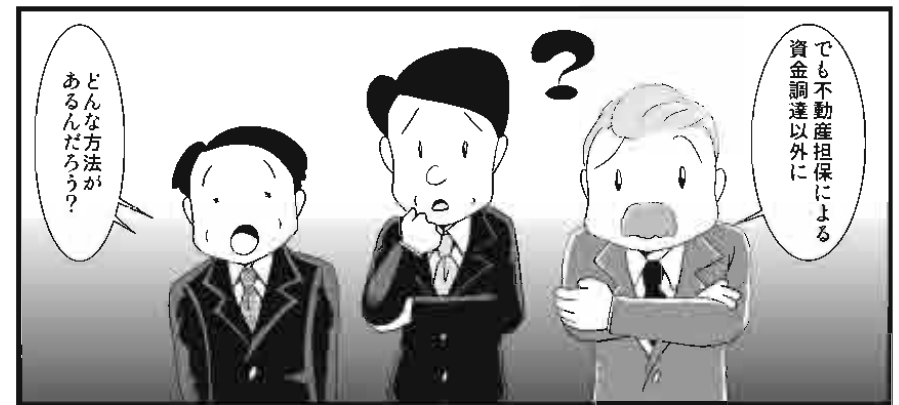
LLPスキームを有効かつ積極的に活用することにより事業の拡大と企業の成長戦略に役立たせます



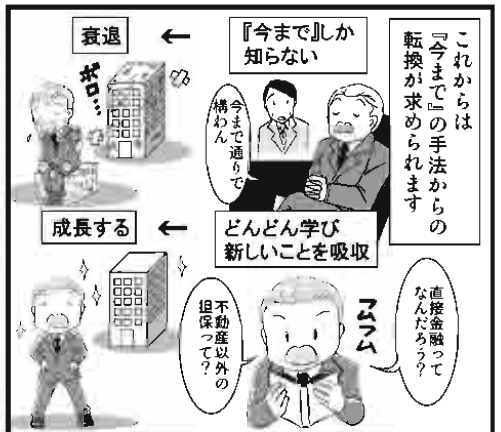
回収の安全性を高めることにより事業投資に見合った適正な調達期間が可能とします



※B/S:貸借対照表の略




ご紹介致します



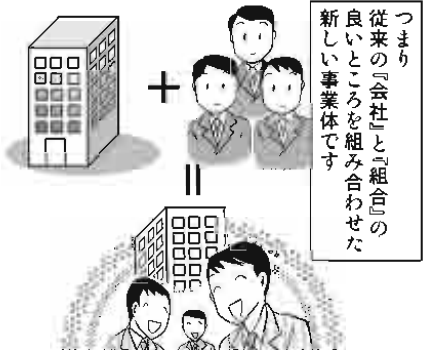
ご紹介します

1. 現状のCFの状態を、正しく銀行や投資家に理解されること
2. 銀行や投資家に対して、財務データ・営業データのクリーンな開示が出来ること
3. 現在のCFを担保として、将来より大きなCFが期待できる投資であること
4. CF拡大のための根拠と将来の収支予測が明確であること
5. LLP事業者として、共同事業経営のパートナーシップが構築できること

このLLPを活用したCF担保で最も大切な事は次の5つです



つまり従来の『会社』と『組合』の良いところを組み合わせた新しい事業体です



ちよつといいですか？
そもそもLLPって何ですか？



分り易く言うと色々なノウハウを持った汗を流して一緒に頑張ります

働きに見合った分配を受け取る事です



Limited Liability Partnership = 有限責任事業組合

私達が組合員です

「有限責任事業組合契約に関する法律」によって行う事業で各組合員が出資を行い、共同して営利を目的とする事業を営むための組合契約です



お会計

会社

LLP

キャッシュフローを担保にした資金調達が可能となるわけです

こうして企業の粗利金をLLPに移すことにより



LLP

つまりLLPを設立し

企業の粗利金をLLPで管理するのです

簿簿



図にするとこのようになります

今までの粗利金の流れを

LLPに移します

貴社

対象店舗

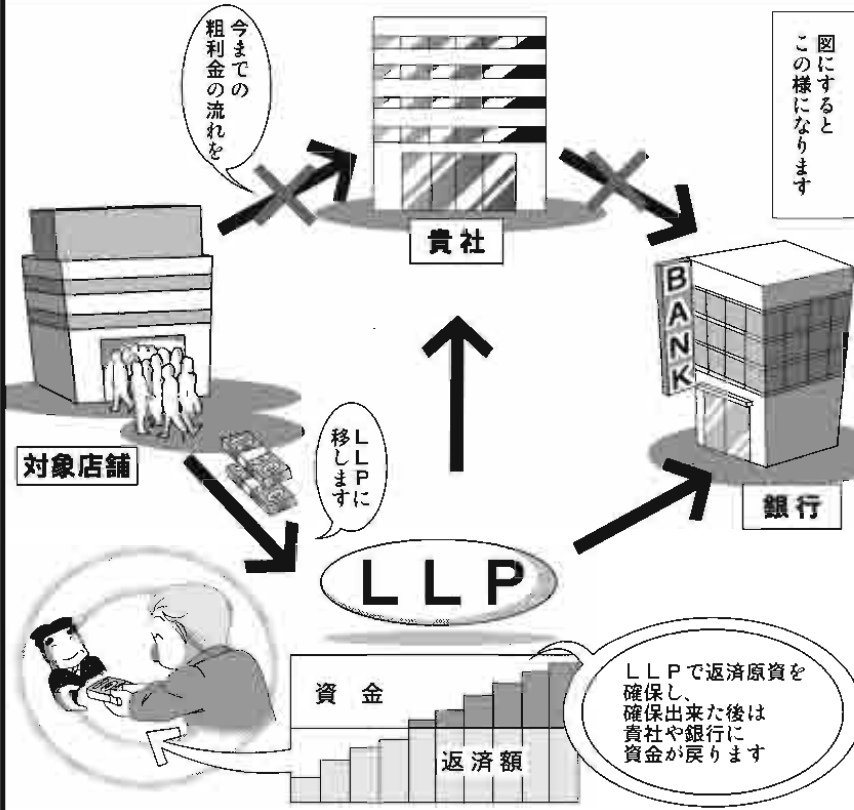
LLP

銀行

資金

返済額

LLPで返済原資を確保し、確保出来た後は貴社や銀行に資金が戻ります

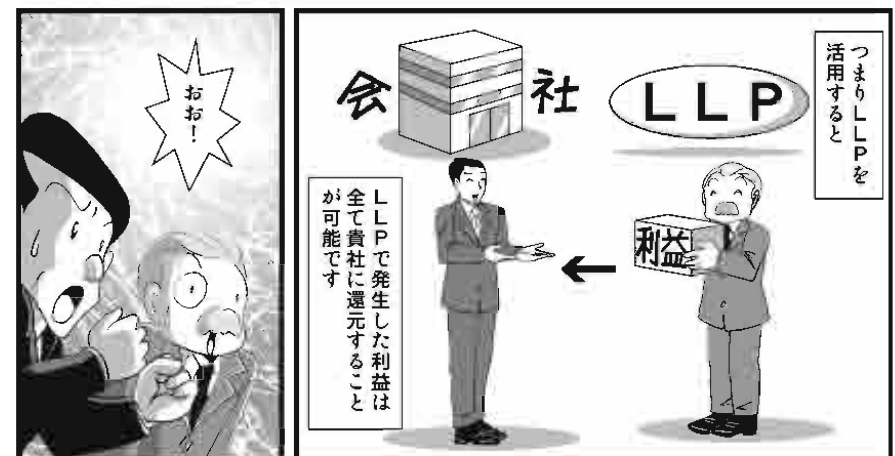




LLP事業の実績

(1)2008年 12月	B企業	メーカー協力による新規建替えオープン資金	調達額5億円
(2)2009年 4月	K企業	投資家からの運転資金調達	調達額130百万円
(3)2009年 8月	C企業	営業設備のオフバランスを実行	調達額60百万円
(4)2009年 11月	K企業	店舗のセール&リースバックを組成	調達額75百万円
(5)2010年 2月	K企業	店舗のセール&リースバックを組成	調達額60百万円
(6)2010年 3月	K企業	遊技機のオフバランスを実行	調達額70百万円
(7)2010年 4月	S企業	投資家からの運転資金調達	調達額30百万円
(8)2010年 12月	E企業	遊技機のオフバランスを実行	調達額200百万円
(9)2011年 3月	E企業	店舗のセール&リースバックを組成	調達額500百万円
(10)2011年 3月	I企業	肩代わり新規建替え資金調達	調達額1,800百万円

だから既にこれだけの経験と実績がございます





債権者からみたLLP事業のメリット

1. 店舗から日々生み出される粗利金を実質拘束、事業者が営業を継続している以上、債権の支払原資が確保される
2. LLP事業からの支払条件に参加する債権者は、優先して弁済が確保される
3. 対象店舗の営業状態が日々で把握することが出来、不測の事態に対して事前の対応が可能となる
4. 追加店舗等一定の安全策を設定することにより、デフォルト回避の方策を講じることが可能になる
5. 事業者に万一の場合は、新たな事業者を新組員として加入させることにより、継続営業が可能となりデフォルト回避が可能となる

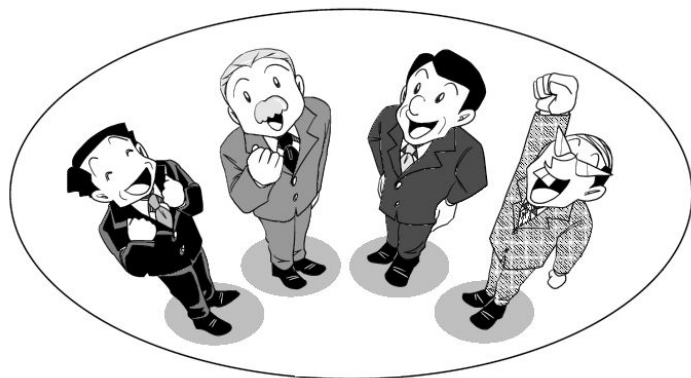
事業者のメリット

1. 新規出店・リニューアルオープン・運転資金などの調達が可能となる
2. LLP事業は共同事業として柔軟性があり、あらゆる事業展開に応じて、さまざまな資金調達方法が検討可能となる
3. 従来の証券化と比較して、粗利金をベースとしているので複雑な仕組みではなく分りやすく、デフォルト回避の方策を柔軟に対応することが可能となる
4. 一時的に資金拘束があるものの、当初決めた条件を満たしていれば、いつでも資金を手許に戻すことが可能。事業による資金ショート懸念がない。

事業者の負担

1. 財務データ・営業データの開示が必要となる
2. 会計処理で一定の経理事務処理作業が発生する
3. 粗利益が一時的に拘束される(但し、タイムリーな資金放出が可能なスキーム)
4. 組成コスト、並びに管理コストが発生する





OTIS.MANAGEMENTは、チャレンジし続ける
貴社の業容拡大に向け、新たなスキームを
ご提供させていただきます

株式会社OTIS. MANAGEMENT
オーティスマネジメント
(英文名 OTIS. MANAGEMENT. co)

〒103-0021
東京都中央区日本橋本石町4-2-17 石田ビル6階
TEL:03-6225-3188 FAX:03-6225-3177
<http://www.otis-m.com>

(裏表紙)

(裏表紙の裏:空白)